Atsuko Kudo Mail Magazine 211

2015.02.26 近藤宏子さん召天

キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。（ピリピ 3：21）

お元気でいらっしゃいますか？
今月、AKWM では大きな出来事がありました。2000 年のミニストリーズ設立当時から、これまで忠実に AKWM スタッフとして仕えて来てくださった近藤宏子さんが、2 月 19 日、天のお父様のもとへ帰られました。

2000 年秋、私は長年務めてきたドイツ開拓教会の伝道師をやめ、「工藤篤子音楽ミニストリーズ」を建て上げようとしていました。不思議な主の導きを確信しながらも、内側には、大きな不安と戸惑いがありました。長年欧州で暮らして来た私にとっては、日本人でありながら新しい地と言える日本で、具体的にどのように賛美活動を進めてゆけばよいのか、どなたが協力してくださるのか、果たして生活して行けるのか・・・

そのような時に、「ミッション・宣教の声」の黒田禎一郎牧師が、イスラエル旅行を新しい活動の霊的な門出にしては、と、10 月末の聖地旅行に誘ってくださいました。

初めてのイスラエルでの初日、美しいガリラヤ湖上で、「Baru Haba」（主の御名によって来られる方に）というヘブライ語の歌を賛美しました。～♪主よ、あなたの御力の舟に乗り、お休みください。そうすれば私たちはあなたの義の衣を着て喜び楽しむでしょう♪～

そう賛美したとき、ああ、そうなのだ、私がいつも主を心にお迎えするなら、主は私を喜びで満たしてくださる。主が私を罪から救い、義としてくださり、主の御力の舟に乗せてくださった。主が私の人生の舵を取ってくださるのだ。嵐の時にはみことばをもって制し、私を守ってくださる全能の主が共におられるなら、何も恐れることはないのだ、そう確信しました。

旅行の 2 週間後、世話人代表に黒田禎一郎師（現・顧問）が、また、旅行に同行された黒田富貴子さん、土田典子師、近藤宏子さん、中川庸子さんが世話人として立ってくださり、ついに「工藤篤子音楽ミニストリーズ」が発足したのです。（写真：2000 年聖地旅行。前列左端が近藤さん）

その後、主に喜ばれる賛美を目標に掲げ、「工藤篤子ワーシップ・ミニストリーズ」と改称、世話人もスタッフと呼び方を変え、メンバーも入れ替わりました。そのような中で、近藤さんは「これは主からの召命ですから」と言って、常に AKWM を支え、霊的柱として 15 年間忠実に仕えて来てくださいました。

その近藤さんが、2 月 9 日（月）に突然心筋梗塞を起こし、11 時間にも及ぶ手術を受けました。手術後、人工心肺をつけ、危篤状態が続きました。そして、19 日（木）、近藤さんは、安らかに天に上って行きました。

★　★　★

祈っていると、よく映像が見える私ですが、今までは誤解を招いたり変な影響を与えたりしないように、あまり人には語らないようにしてきました。けれども、今回だけは、特別なお分かちをさせていただきたいと思います。

9 日から近藤さんの癒しのために祈り始めた時、最初、彼女の心臓の上に獣のような手が置かれているのが見えました。敵の手、今回の病は敵の攻撃ではないかと思いました。小羊の血潮を呼び求め、主がその手を取り除いてくださるよう叫ぶように祈り続けました。14 日（土）の夜には、ロンドンに在住しているスタッフご夫妻と、スカイプで切なる祈りをささげました。

15 日（日）、一旦人工心肺を外し、近藤さん自身の心臓が動いているというニュースを受けました。しかし、その喜びも束の間、再度人工心肺を取りつけたという知らせが入り、再び多くの祈りの手が上げられました。

その頃から、私の目には、近藤さんの心臓が、私たちのいのちである小羊の血潮に浸されている映像が見えてくるようになったのです。心臓の上に載っている手、それはもはや獣の手ではなく、人の手のように肌色になっていました。火曜日には、心臓を浸す血潮はもっと多くなり、心臓とその上に置かれている手は、少ししか見えなくなりました。

そして、水曜日、それまで 2～3 日おきに朝断食して祈っていたのですが、この日は、夜の断食の祈りに導かれました。祈っているうちに、こみ上げてくるものがあり、途中涙が溢れました。そのうち、血潮に浸った心臓が鼓動を打ち始める映像が見えて来たのです。それから、不思議なことに私の舌がチャプチャプと音を鳴らし始めました。その次には、口の中が、喉の奥からも水が湧き上がるような、あるいは血流のような、同時に息のような音を立て始めました。そのような状態が、言葉の祈りの合間に 3～4 時間も続きました。それは生まれて初めての体験でした。

そして最後には、私の口から今まで歌ったことも聞いたこともない賛美が湧き上がってきたのです。何とも言えない平安と神の愛に包まれました。これはきっと主が近藤さんを癒してくださるしるしに違いないと思い、主に感謝して床につきました。

しかし翌朝 19 日（木）、パソコンを開くと、日本時間の 14 時過ぎに近藤さんが召されたというメールが入っていました。ショックと深い悲しみに打ちのめされそうになりました。しかし、その時、あの映像も、口から湧き出てきた不思議な音、賛美も、主が近藤さんを、天に迎え入れるための準備、つまり、古い幕屋を脱ぎ捨てて、栄光の体に変えられていく様子ではなかったのかと思わされたのです。主が大いなる喜びをもって、忠実な神のしもべとして地上の生涯を全うした近藤さんを迎え入れてくださったという確信が与えられ、深い悲しみと喪失感に勝るイエス様の愛と主への感謝が私の思いを包みました。

★　★　★

近藤さんは、2000 年のイスラエル旅行で AKWM の世話人となる召命を受け、病で倒れるまで、忠実に仕えてくださいました。頭脳明晰でありながら、思いやり深く、チャーミングな人柄で、教会に仕え、ユダヤ人伝道や世界宣教の働きに加わり、地域の民生委員としても働きました。国内のコンサートや中国宣教にも祈り人として同行、2012 年には一緒に被災地を回りました。イエス様をこよなく愛し、忠実な神のしもべ、祈りの戦士でした。（写真：2012 年 5 月、岩手県宮古市田老地区にて）

そんな彼女が、69 歳の最後の日に召天し、翌 20 日の 70 歳の誕生日が、この地上での葬儀（前夜式）となりました。しかし、この日、天上では、新しい体をいただいた彼女の、盛大なバースデー・パーティーが催されている映像が、また私の心の目に見えてきました。

AKWM は、大切な霊的支え人を失いました。しかし、70 人の長老たちにモーセの霊が分け与えられたように、エリシャがエリヤの霊を受けたように、私たちも、近藤さんの召天を通して、彼女の霊―イエス様への燃える愛、人々への愛、仕える霊―を分け与えていただいたのではないかと思っています。悲しみは時とともに静まって行くと思いますが、彼女への思い出と感謝は尽きることがありません。

また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」（黙示録 14：13）

●お祈りください

―近藤さんのご主人のために。

近藤さんのご主人はまだ信仰を持っておられません。どうか、深い悲しみに沈んでおられるご主人に、真実の癒し主、救い主であるイエス様の霊が臨んでくださいますように。

―3 月 7 日（土）のマドリッドのコンサートのために。

主が私たちに聖霊を与えてくださったのは、私たちが世の果てまで福音を伝えるためです。どうかこの者が、イエス様の愛と聖霊の力に満たされて、救いの良き知らせを、賛美と証しをもって伝えることができますように。また、主が多くの人々をコンサートに集めてくださいますように。マドリッドにお知り合いがいらっしゃいましたら、お知らせいただけますなら感謝です。

・チラシ日本語　https://dl.dropboxusercontent.com/u/88436545/ChirashiJP.jpg
・チラシスペイン語　https://dl.dropboxusercontent.com/u/88436545/ChirashiES.jpg
・チラシ英語　https://dl.dropboxusercontent.com/u/88436545/ChirashiEN.jpg

―4 月 25 日（土）札幌での賛美セミナーのために。

札幌聖書キリスト教会にて、賛美セミナーを開催いたします。北海道在住の方々はどうぞふるってご参加ください。もちろん、本州からの参加も大歓迎です。また、北海道にお知り合いのクリスチャン、教会がありましたら、お知らせいただけますなら感謝です。

・セミナーパンフレット
https://dl.dropboxusercontent.com/u/88436545/%E8%B3%9B%E7%BE%8E%E3%82%BB%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC%E6%9C%AD%E5%B9%8C%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%95.pdf
・セミナー申込書
https://dl.dropboxusercontent.com/u/88436545/%E8%B3%9B%E7%BE%8E%E3%82%BB%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC%E6%9C%AD%E5%B9%8C%E7%94%B3%E8%BE%BC%E6%9B%B8.pdf

～～

ハンブルクは気温こそまだ低いですが、少しずつ春が近づいているのを感じています。
皆さまの上に、主の守りと祝福をお祈りしています。

Atsuko Kudo